

1997年1月10日

《毎月 10 日発行》
第191号 4 項200円
年間定期購読料（送料込み）
開封 2500 円／密封 3000 円

開封 2500 円／密封 3000 円

年間定期購読料（送料込み）

開封 2500 円／密封 3000 円

請到 2000 13, 白到 0000 13

Journal of Health Politics, Policy and Law, Vol. 29, No. 4, December 2004
DOI 10.1215/03616878-29-4 © 2004 by The University of Chicago

赫 せつき 旗

共產主義者同盟中央機關紙

(1980年2月28日第3種郵便物認可)

二面：闘争報告
発行 三面：ペルー日本大使公邸占拠
十一 四面：日本経済の現状⑧

埼玉県新座郵便局私書箱 47 号
郵便振替：00590-0-20004
(関西) 大阪港郵便局私書箱 40 号
郵便振替：00940-1-132778



96—97 釜ヶ崎越年越冬鬪争（12月31日、心斎橋）

第一は、資本主義によつて労働の手だてから引き離され死線上に沈められていく失業労働者の大軍が世界大で膨張していることである。

資本は、「第三世界」の農業を日々急激に解体して膨大な過剰人口を創り出し、帝国主義諸国のか底的労働力として導入するなど、自己増殖欲求のおもむくままに国境を越えて労働者を流動させ使い捨てている。しかし、「第三世界」の農村に滞留しそこから流出する「過剰人口」は、政治難民によつて相乗され資本と国家および國際反革命体制が自らのシステムに包摂できる限界を越えて膨張しつつある。「第三世界」の都市スラムが肥大化し、難民キャンプが世界各地に出現し、帝国主義諸国との国境の壁を「非合法」で乗り越える人口移動が常態化している。帝国主義諸国における移民排斥運動は資本主義の悲鳴に他

だが、資本主義のこの発展の一歩一歩は、資本主義が人間社会の存続そのものにとって桎梏となる過程に他ならない。いま進行していく事実によれば、

社会の存在と 矛盾し始める資本主義

五年前のソ連社会帝国主義の崩壊は、その本質において官僚制国家独占資本主義の破産だつたとはいへ、既成の共産党が宣伝し社会的に認知されてきた「社会主義」の破産でもあつたことから、『資本主義の勝利』として現象した。労働者のたたかいは後退分散孤立化を強いられ、階級闘争が存在しないかのごとき政治状況が現出した。いまや資本は、米帝を主柱と

する国際反革命体制の下で、諸
国家に市場開放と規制緩和を推
進させて「大競争時代」を開き、
多国籍企業の発達と多国籍企業
同士の国境を越えた吸收・合併
・国際寡占体制に向かって突き
進んでいる。それは資本に残さ
れた活力の発現である。彼らは
市場開放と規制緩和の大合唱の
中に中間諸層を巻き込み、弱肉
強食の社会を復活させている。

第二は、巨大資本が、その政治的および経済的な支配体制を世界体系としてしかも重層的な構造として確立し、その力をもつて社会のあらゆる発展の要素を押し潰す存在になつてきていることである。

同時に資本は、帝国主義諸国
の産業の内部からも過剰人口
を排出し、再び吸収することの
できない層を創り出し膨張させ
ている。一つはグローバルな擁
取体系への移行に伴う国内製造
業の空洞化、一つは情報・通信
革命に伴う企業官僚機構のリス
トラ、一つは機械制大工業の成
熟、帝国主義国における衰退産
業化)に伴う資本主義的経済発
展そのものの行き詰まり、この
三つが大きな要因となつていて
いる。まず家族員の収入によつて
支えられない単身者・再就職が
困難な高齢者から「ホームレス」
状況に追い込まれ、この層が膨
張しつづかる。

軸として諸国民・諸民族」として、階層化した重層的支配構造を創り出している。また、帝国主義諸国内においても「外国人」労働者の導入によって、同じ構造を創り出している。こうして資本は世界中の労働の搾取で肥えたり、諸国民・諸民族の労働者がグローバルな搾取の網の目にま

雇労働組合協議会(日雇全協)

1・19 日雇全協総決起集会

2

間社会の存立基盤である地球環境を崩壊つつあることである。人間社会の物質代謝の結果で



MRTA 日ペル・大使公邸占拠を支持する

フジモリ政権支える日帝ゆるすな

昨年十二月十七日(現地時間)、トゥバク・アマル革命運動(MRTA)の戦士は、ペルーの首都リマにある日本大使公邸を占拠。ペルー国家権力中枢、日本進出企業幹部、各国外交官ら数百人を捕虜とした。

われわれは、帝国主義本国の人民として、また共産主義者として、このペルー共産主義組織による日帝の出先機関に対する英雄的な戦闘を断固支持する。

MRTAは、十七日のコミュニケで四項目の要求を掲げ、戦争に直接関係のない捕虜の釈放を続けながら、ペルー軍警察、さらには米英独日ラ帝国主義列強の軍事的・政治的重圧包囲と対決し抜いている(一月四日現在)。

九〇年に発足したフジモリ政権は、主要にペルー階級闘争の前進に規定された危機の突破を主任務とする、歴代帝にみる困難な独裁政権である。流行のネオ・リベラリズム政策で、国営企業を相次いで民营化、外資の導入を積極的に図り、一定の経済活性化で、就任当初年率七六〇〇%を超えたインフレを、一〇%台まで押さえ込んできた。また、実質成長率も一〇%台を確保しているといわれている。だが、これらの「華々しい」成績の結果、都市と農村の矛盾は増大し、全人民に貧困が押し付けられている。とりわけ、貿易赤字の爆発的拡大への対応として打ち出された九五年からの緊縮財政によって、実質的な貨下げと失業が増大した。国民の

われわれは、帝國主義本国の人民として、また共産主義者として、このペルー共産主義組織による日帝の出先機関に対する英雄的な戦闘を断固支持する。

MRTAは、十七日のコミュニケで四項目の要求を掲げ、戦争に直接関係のない捕虜の釈放を続けながら、ペルー軍警察、さらには米英独日ラ帝国主義列強の軍事的・政治的重圧包囲と対決し抜いている(一月四日現在)。

MRTA 12月17日付コムニケ

1996年12月17日 リマ

コムニケ 1

トゥバク・アマル革命運動全国指導部は、愛するわがペルー人民にあいさつを贈り、本日、17日午後8時25分、わが組織の特別部隊「エドガー・サンチエス」が日本大使公邸を軍事占拠、政財界人と在ペルー外交団を捕虜にしたことを宣言する。

われわれは、この作戦を「沈黙を破れー人民は自由を求める」というスローガンをもつ、「オスカル・トレ・コンデス」と名付けた。この作戦は、MRTA-HEMIGIDO HUERTA LOAYZA司令官の指揮下にある。

われわれは、ペルー日本大使公邸を軍事占拠した瞬間から、すべての行動が捕虜の肉体的・道徳的安全を維持するように配慮されていることを明確にする。われわれは、ペルー人民の大多数に悲惨と飢え以外の何ものももたらさなかつた経済政策とともに、ついにフジモリ政権のさまざまな人権侵害を支え、わが国の政治生活に干渉してきた日本政府に対する抗議としてこの軍事占拠を決行した。

われわれはまた、わが人民に、非人間的な環境と彼らの肉体・精神の徹底した破壊を目的とした監獄システムの下に投獄されたわが組織のリーダーと數十名のメンバーの命を救うために、このような極端な手段を余儀なくされたということを知らせておきたい。彼らは、アルベルト・フジモリ氏が「彼らは朽ち果て、死ぬ以外にない」という言葉で繰り返し語った、その通りの「墓場刑務所」に投獄されている。これは、わが人民の幸福のために武器をとつて起つあがつた社会主義の戦士に対する、非理性的な憤激を示している。

この意味で、われわれは、捕虜となつた人間たちの身体的安全が尊重されているということ、そして政府が以下の要求に従つた場合にのみ彼らが釈放されるのだということを強調しておく。

1 政府は、圧倒的多数の幸福を目的としたモデルに同意し、その経済方針を変更することを表明すること。

2 MRTAに属するすべての囚人と、わが組織に属するとして起訴されたすべての囚人を解放すること。

3 日本大使公邸に突入したコマンドと囚人をすべて、中央ジャングルに移送すること。保証人として、選ばれ・同意した数人の捕虜が同行する。彼らは、われわれが解放区に到着次第、釈放されるであろう。

4 戦争税の支払い。

MRTAはつねに、対話に向けた提案に回答するための組織を配置してきたが、それは政府から拒絶され、嘲笑されてきた。今日、われわれは対立状態にあり、捕虜の命を危険に晒すいかなる軍事的選択も、また、政府が要求に応えない場合にわれわれがとる他の行動についても、その完全な責任は政府側にあることをはっきりさせなければならない。

大衆と、武器とともに、PATRIA O MUERTE VENCEREMOS !

MRTA全国指導部

(英訳文より、訳責: 編集部)

モリ政権を直接に支えるものなのである。

最近日帝は、こうした批判をかわすため、医療や農村かんがいにも対象を拡げる新戦略を表明し、それを「人間中心の開発」と称している。しかし、これと

てもその欺瞞性だけでなく、革

命運動圧殺のための政治目的を

く光のさざない地下八メートル

の独房に隔離され、運動は一日

三十分のみ。書籍、新聞、ラジ

オ、TVにはまったく接するこ

とができる。面会は月わずか三

年で、「天皇誕生日はなんと國

祭日(ナショナルデー)として

九条が壁になつてゐる」とし、

その後設立された「國際テロ対

セプションとは、天皇誕生日を祝賀するものであった。ここ

では、「天皇誕生日はなんと國

祭日(ナショナルデー)として

SG9派遣の意志を表明して

了。独帝も、特殊部隊「G

法」の整備が検討されている。

MRTAのたたかいを口実にし

た、戦時態勢づくりの一環とし

て、「和平協定」への調印など転

向強要が繰り返される。当局は

この事態の中で、ペルー革命圧

迫れていた。そのため、各

国大使から日系ブルジョア

ジー、ペルー政府・官僚までも

殺のために直接に介入していた

こととが暴露された。すなわち、雁首を渝えていたのである。ま

つた残念なことに難を逃れた

が、フジモリも出席する予定だ

った。「國祭日」とは、中国でい

た。國慶節など、その國の建国記

日や独立記念日を意味する。

あらためて、対外的には天皇が

雁首を渝えていたのである。ま

た。それでは、なぜかと云ふ

こととが露呈した。すなわち、

MR TAによる八六年と九一年

の米大使館襲撃に対し、ペル

ー政府と共同で鎮圧作戦にあつた(マカリー報道官)といふ

こととが判明している。そして日

帝も二十七日、陸自中央資料隊

までに二度にわたつて米偵察機

は共産主義運動の現下の混迷を

打破して新たな発展の方向をた

た。また、今回も、二十七日

までに三等陸佐を現地対策本部に派

遣している。

そこで日本において、この事

態を口実にまたぞろ「危機管理

」の強化が声高に叫ばれ出している

ことである。十九日、自民党

の外務省は、米日帝に対する戦闘

断固支持! 日本のプロレタリ

アート・人民は、米日帝の反革

命介入を阻止し、可能な限り

の支援・連帯を追求しよう。

(大橋)

